

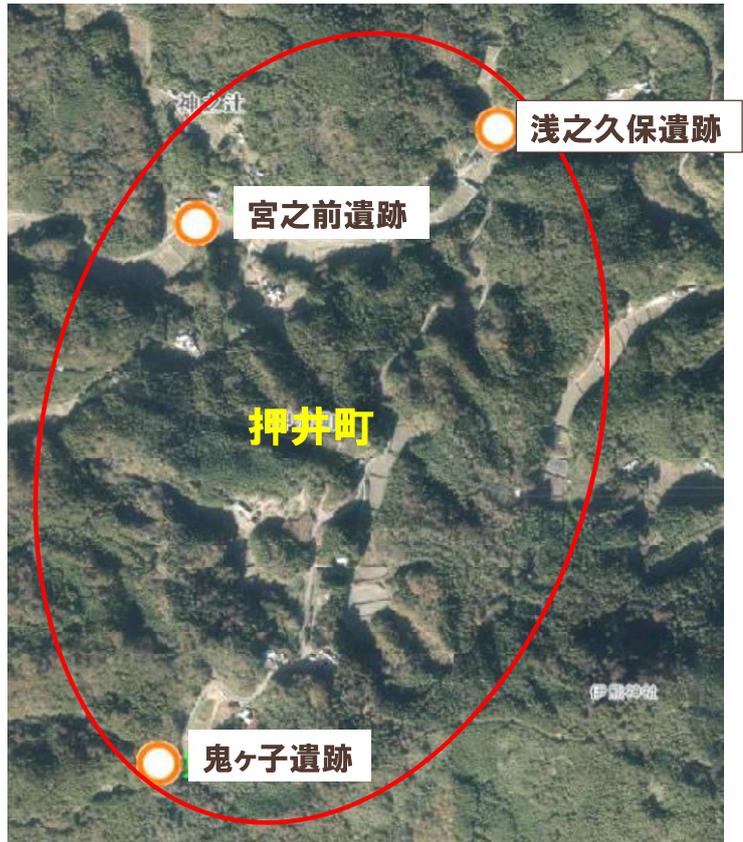


押井の里は敷島自治区の1集落



**森と谷間の僅かな
農地しかない人口
68人の押井の里**

- ・そこには3000年にわたる人の営みがあった
- ・それは、土地に根差した食の自給の歴史
- ・しかし、この50年で里は消滅に向かい始めた
- ・農の営みを諦めた時、集落は消滅に向かう
- ・「自給」に集落存続のヒントがあるのではないか



押井の里・押井営農組合のチャレンジ



源流米ミネアサヒCSAプロジェクト
Community Supported Agriculture

**① 一般社団法人設立
農地集約化**

「地域まるっと中間管理方式」による安心で確実な集約

② 米の自給家族

「つながり消費」を指向する100家族と長期栽培契約

③ 機械設備拡充

ライスセンター・保冷庫など自給家族に必要な設備拡充

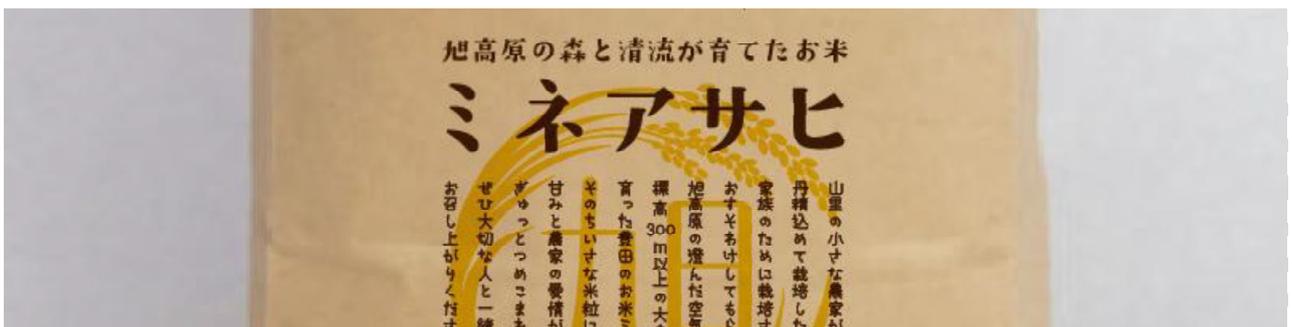
①地域まるっと中間管理方式



- ① 農地の利用権が持てる一般社団法人を立ち上げる
- ② 集落の全農地を県農地中間管理機構に貸し出す
- ③ 集落の全農地を農地中間管理機構から借り受ける
- ④ 自作希望農家と「特定農作業受委託契約」を締結する

何があっても農地は法人に戻り、決して耕作放棄されない。

②米の自給家族・押井の里の家族を増やす



- ① 3～10年の長期栽培契約者「自給家族」を募る
- ② 契約者は、1俵30,000円の栽培経費を前払いする
- ③ 契約に基づき「特別栽培米」として生産、保管する
- ④ 「自給」の喜びもリスクも共有する
- ⑤ 10kg単位で取扱、自己引取、楽しく交流する

**得意の米で農地が守られ、食の安心を保証、
双方の暮らしが豊かに、楽しくなる。**

生産者と消費者がつながって、双方が豊かになる 「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

押井の里のメリット

- ・農の営みが続き
農地が守られる
- ・集落が消滅の危機から
救われる
- ・「関係人口」が生まれ
暮らしが楽しくなる

親戚の米を
少し多めに
作るようなもの

米の「自給家族」

押井の里家族
(営農組合)

WIN-WIN
の関係

新しい家族
(契約者)

一つの家族となって、
自分たちが食べる安全で
美味しいお米を自給します。

新しい家族のメリット

- ・安全で美味しいお米が
確実に手に入る
- ・地球や人に優しい
消費に貢献できる
- ・自然や人の温もりを感じ
暮らしが楽しくなる

少し横着な
「棚田オーナー」
のようなもの

103家族が3.0haの農地を守る 押井の里「自給家族」の現状（2023年10月現在）

居住地域	市内36、県内43、県外24(東京、京都、大阪など)
契約数量	2023年産契約数量154俵(世帯平均1.5俵)
契約年数	6～10年34件、3～5年55件、1～2年お試し14件

各種アワードで受賞

- R4ディスカバー農山漁村の宝 東海農政局長賞
- R5豊かな村づくり表彰 農林水産大臣賞
- R5農林水産祭 日本農林漁業振興会長賞

- 評価
- ①地域まるっと中間管理方式
 - ②米のCSA「自給家族」方式



11.23農林水産祭(明治神宮)

③機械設備拡充 米生産の機械設備拡充

① ミニライスセンター 総工費	30,000,000円
愛知県山間地営農等補助金	13,794,000円
融資(農業近代化資金)	10,000,000円
自己資金	6,206,000円

② 穀物保冷庫「みんなの蔵」	1,429,000円
クラウドファンディング	1,429,000円
(クラウドファンディング支援者210名、寄付総額230万円)	

ブランド化のために必須の機械設備の整備

クラウドファンディングで「みんなの蔵」整備

誰も損も得もしない、みんなが 少し幸せになる「自給家族」

評
価

- ① 「自給家族」は山村農地保全の切り札になる
- ② 地域まるっと中間管理方式は「現代の庄屋」

課
題

- ① 農業人材（オペレーター等）の安定確保
- ② 経営改善のポイントは「草刈りの省力化」



ゆるゆると、楽しんで集落を守る！

10年後を展望し
5年間の行動計画を定める

「しきしま♡ときめきプラン」



2019年12月7日
公開討論会

討論には、中学生やしきしまファンの都市部住民も参加

移住者受入れは空き家活用が決め手

10年間の移住実績

40世帯 98人

2020年2月24日

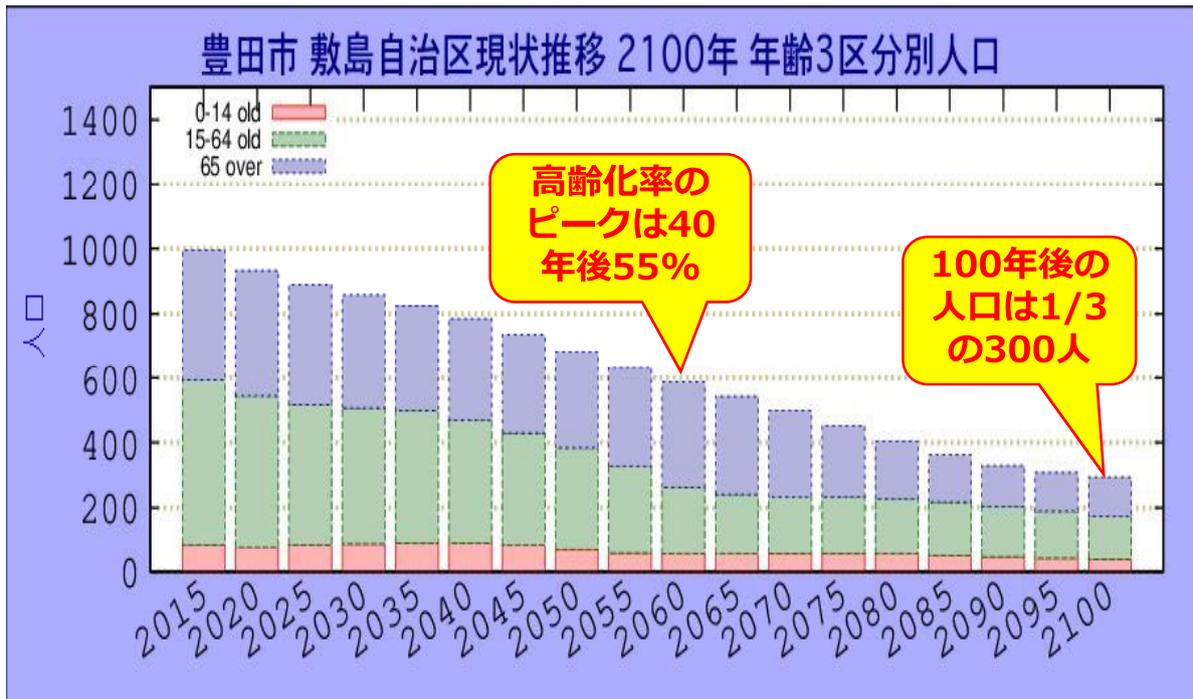
空き家片付け 大作戦



2020年2月2日

暮らしの参観日(空き家見学会)

人口減少、高い高齢化率は100年続く



名古屋大学「小地域ごとの簡易人口推計ツール」

「しきしま♡ときめきプラン2020」 3つの重点プロジェクト

人口減少・超高齢社会を受け止めて前に進む！

プロジェクト① 支え合い社会創造プロジェクト

誰もが「支える人」であり続け、無理のない持続的な有償ボランティアのシステム(現代の「結」)を創り上げる

プロジェクト② 農村景観を守る農地保全プロジェクト

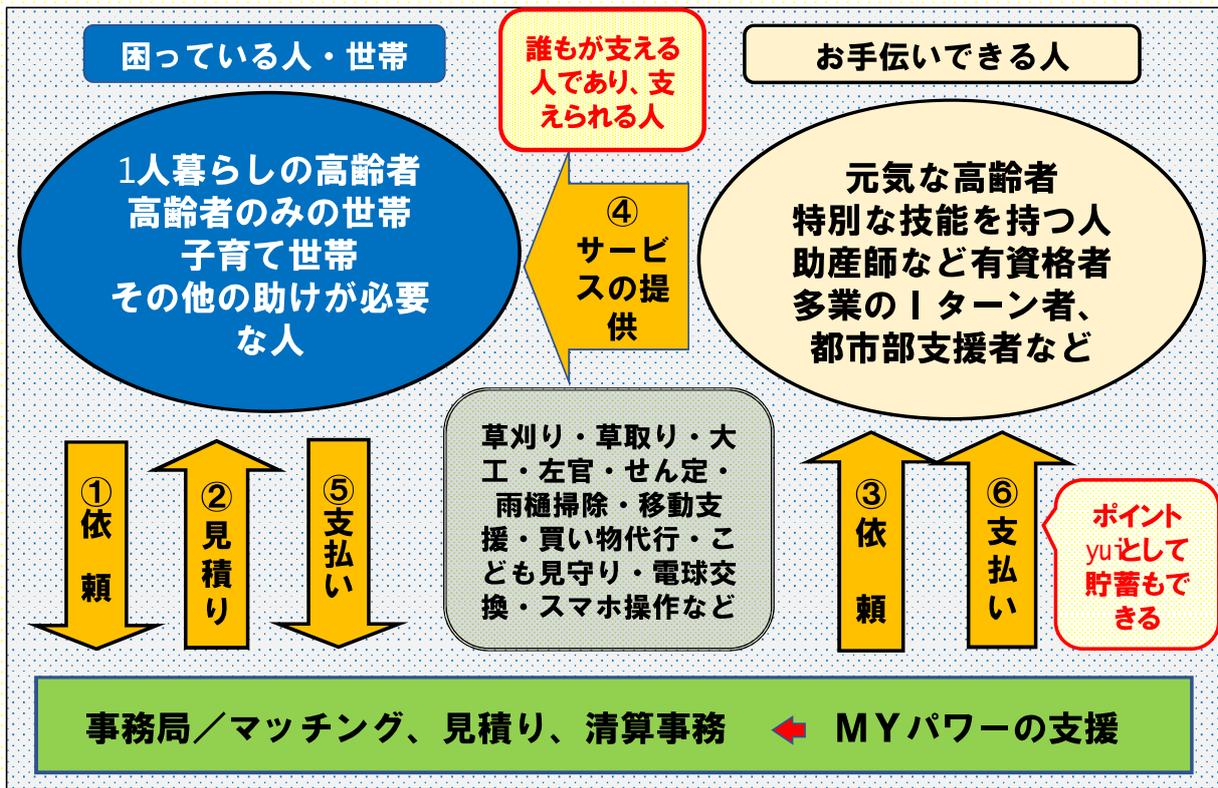
美しい農村の風景を次世代につなぐため、消費者とつながる農地保全(CSA農業)、集落営農組織化に取り組む

プロジェクト③ 未来への構造改革プロジェクト

人口減少・超高齢社会に合った自治区、町内会などに改め、関係人口と共に地域を自治する地域運営組織を立ち上げる

PJ①

しきしま支え合いシステム



PJ②

農用地保全しきしま方式

話し合いの到達点

- ① 個別集落での農用地保全是限界
- ② 自給家族方式をしきしま全域に拡大
- ③ 農業法人を設立し農地利用調整推進

しきしま全体の広域連携で農地を保全しよう

国の政策などの有効活用

- ・ 中山間直払いの加算制度活用（協定の1本化）
- ・ 農村RMOモデル形成支援事業活用（R5～R7）
- ・ 最適土地利用総合対策事業活用（R6～R10）
- ・ 多面的機能支払制度活用（R8～全集落拡大）
- ・ 「地域計画」の実質化推進（R7～「地域まるっと中間管理方式」による集積・集約化）

PJ③

みんなのたまり場「しきしまの家」

経営的手法で地域課題を解決する2階を増築

自治区の方針に基づき、経営的な観点や手法で具体的に事業を実施する。



地域課題を協議、方針を定め行政と共働して実践する。

2階 しきしまの家

支え合いプロジェクト事務局	関係人口とつながるテーマ別団体のプラットフォーム
農地保全プロジェクト事務局	
農村レストランふらっとyui	

1階 敷島自治区(任意団体)

定住促進部	環境保全部	福祉健康部	町内会、農事組合など地縁的団体
次世代育成部	安全安心部	広報部	
大規模災害に備えた機能的防災会			

農村RMO実証事業も着々

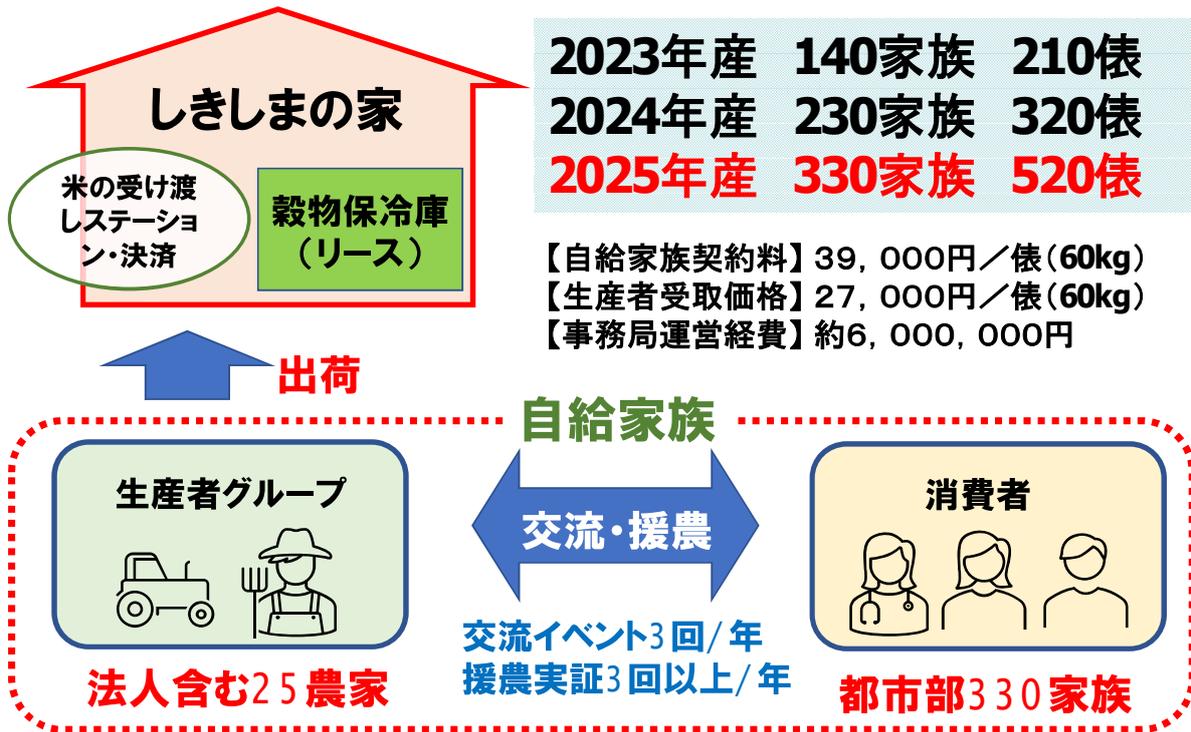
令和5年度から3年間の農村RMOモデル推進支援事業に採択されました。

草刈りロボットは、愛知工業大学との連携事業、農用地保全の切り札、しきしまの家「自給家族」の募集を開始しました。

農用地保全	「地域計画」実現化戦略計画
	草刈りロボット開発実証
地域資源活用	しきしまの家自給家族実証
	RM0拠点しきしまの家整備
生活支援	高齢者生産野菜配送加工実証
	支え合いシステム実証
	高齢者移動支援実証



しきしまの家自給家族2025年産到達点



【参考】R7 農村RMO実証事業

援農ボランティアによる生産性向上実証

中山間地域における
水稻経営の課題

- ①草刈り経費が人件費の3割を占める
- ②獣害対策、井水管理、日照確保、法面保全、畔塗等漏水対策にかかる人件費、資材費など平野にはないコストがかかる

実証

- ①自給家族から援農参加者を募集
- ②安全講習で草刈りのスキル習得
- ③草刈り等援農作業の実施
- ④お礼米1kg/時間相当のポイントyuiをスマホにチャージ
- ⑤契約料決済にあたりポイント充当(自給に参加)



森の自給家族 Open Commonプロジェクト



放置里山林は山村の暮らしの脅威

かつて薪炭林、キノコ原木、肥料用の落葉採取などに利用され、田畑と共に美しい農村景観を形成した里山林は、放置されて大径木化、竹林化し、山村の暮らしの脅威にすらなっている。

自然の成長を喜び豊かな暮らしに活かす、あるべき自然と人の関係を取り戻すことは、もはやできないのだろうか。



利用されなくなった里山林は、日照を妨げ、人家に迫り、害獣の温床となり、山村の暮らしを脅かし始めた。

「入会地」(いりあいち)とは？



入会地（いりあいち）とは、村や部落などの村落共同体（入会集団）が総有する又は共同利用が認められた土地で、薪炭・用材・肥料用の落葉を採取した山林である入会山と、まぐさや屋根を葺くカヤなどを採取した原野・川原である草刈場の2種類に大別される。(w k p e d i a)

「新・入会地」Open Commonを創ろう



過疎化などにより、地域で管理できない森林や農地があります。村人と、そこに価値を見出す人々がつながり、みんなで決めたルールの下で適切に管理しながら活用し、それぞれの幸せのカタチを見つける「新・入会地」Open Common を創ろう。

フィールドは10haの広大な森、田畑、古刹



どんなコモンを創るかみんなで考えよう

年度	ステップ	取組み内容	活用制度など
2021	ビジョン	普賢院東屋整備(山笑会) ビジョン検討会	地域森づくりモデル事業 わくわく事業
2022	プラン	現地調査・自然観察(アセス) 境界確認・地権者同意・管理協定 プラン検討・集落の森のデザイン	地域森づくりモデル事業 わくわく事業
2023	実行	森と緑づくり事業 施業(その1) プランに基づく協働活動(多面等) Open Commonデザイン	地域森づくりモデル事業 県森と緑づくり事業 わくわく事業・多面的
2024		森と緑づくり事業 施業(その2) プランに基づく協働活動(多面等) Open Commonルールづくり	地域森づくりモデル事業 県森と緑づくり事業 わくわく事業・多面的
2025	共同管理	プランに基づく協働活動(多面等) ログハウス風公衆トイレ着手 Open Common暫定オープン	わくわく事業・多面的

Open Commonによる持続可能なミライ

こんな場所でありたい

- ①「関係人口」とつくる地域自治のモデル
- ②自然に生かされていることを体感する
- ③多様な価値観を認め合い寛容になる
- ④自分好みのふるさとの原風景をつくる
- ⑤何もしなくても、居ていい場所になる

山村自治の新しい考え方

これまで

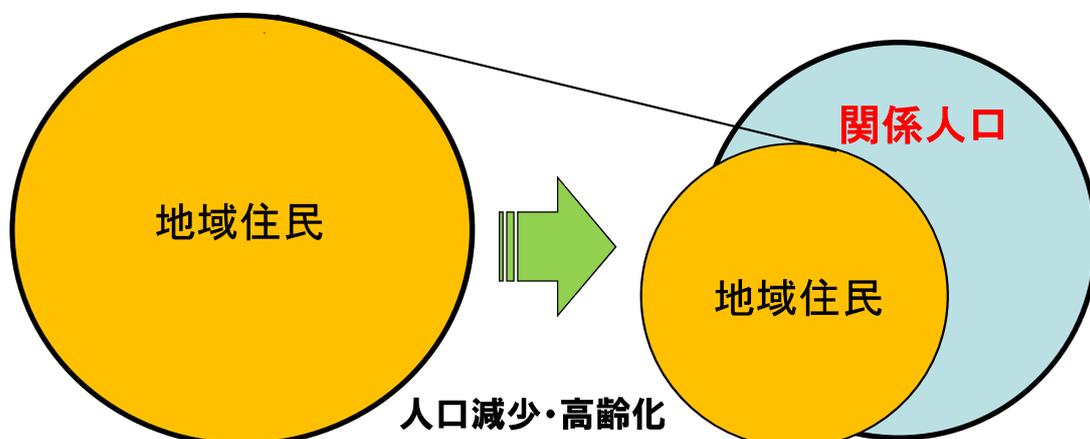
地域自治 = 住民自治

地域住民が主体性を持って自立し、地域課題を解決

これから

地域自治 = 関係自治

地域住民と関係人口が共に自治の主体となって地域課題を解決



関係人口：都市に居住しながら山村地域の課題解決に積極的に関わる人